

目次

世の中には巨大な嘘がおおっている	矢野彰教	2
ある発明家の病理	新戸雅章	5
心の病について	賀来宏之	7
●メンバーの広場●		
ネズちゃんと私 パートⅧ／つなことたつお	桂 奈美	8
俳句	小山美保	8
僕の背より高い向日葵	宮尾俊介	11
障碍者の空想・妄想	永井秀和	11
時間	水野弥生	12
柴田品子の世界⑥	柴田品子	13
精神科病棟日誌シリーズ④数学／鏡	小野智司	16
インユートピックス		17
イラスト・絵画・写真 杉本千佳／高橋大和／新戸雅章／柴田品子／遠藤美幸		
表紙		
写真―新戸雅章		

世の中には巨大な嘘が

おおっている

矢野彰教

私は中学生の頃よくノートに「世界は巨大な嘘におおわれている」というようなことを書いていた変な中学生でした。

それから半世紀も経ってしまいました。それがこのことだったのかと最近思うことが多く、このフレンズ通信を通じて書いてみようと思います。

1 マスコミ

私はここ2年近く民放もNHKもテレビを全く観ていません。

きっかけは年の暮れ、恒例の箱根駅伝が近くなっているのに、テレビも週刊誌も黙っているから、コロナのため中止になったと思っていたら、一月二日、三日例年通り開催されたので??? 大きな何かの指導にマスコミは完璧に統制されていることを確信しました。以来自宅でテレビを一分たりとも観ていません。統制する側の意図に私の脳が、思考が洗脳され真実が見えなくなってしまう恐れがあるからです。

2 反トランプ報道

全世界のマスコミがオカシクなっていることに気づいたのは2016年のトランプ前大統領が初めて大統領になった時の選挙報道でした。日本も含め世界の大手マスコミが彼を人格が劣った人のように報道していたのに、大統領に当選されました。アメリカ合衆国の半数以上が彼を信頼し託して選んだのです。それなのに世界の多くのマスコミは彼を落とすための報道をしていました。巨大なお金と政治とマスコミを操作している×がいる。

しかしそういう中にあってもアメリカの半数以上の人がこの巨大な洗脳に負けずにトランプを選んだという事はアメリカの民主主義はまだ生きています。

さてテレビを観なくなった代わりに私はYouTubeをよく観るようになりました。最近ではテレビの大きな画面でYouTubeなども観ることができます。帰宅後、何となくテレビを付けて見ていたように、YouTubeを観ています。私の前に、マスコミでは語られない全く違う世界が開かれてきました。

3 謎に満ちた日本の古代史

東北大学名誉教授の田中英道氏は古墳から出てくる埴輪の中にユダヤ人の像を複数発見したことから、当時、国を失ったユダヤ民族の一部族、秦氏が日本に渡来し、

帰化して古代の日本の政治、文化に大きな影響を与え、関西の巨大古墳や京都の古都建設、神社仏閣など彼らが作ったというものです。教科書やマスコミでは全く語られない、日本の歴史、文化、伝統の土台となる重要な事実を明らかにしています。

4 林千勝著『日本開戦 陸軍の勝算「秋丸機関」の最終報告書』との出会い

私は20歳の頃より、何故、日本は太平洋戦争を始め、何故負けたかについて知りたく、それなりに勉強しましたが、未だに腑に落ちていません。

また敗戦後は戦勝国アメリカのGHQの指導の下に日本の戦後の体制が作られ、現在もその中にあります。最近暗殺された阿部元首相は、戦後レジームからの脱却を国是に訴えました。

戦後レジームの中では、戦争の原因と責任は特に帝国陸軍が、アメリカという大国に対して無謀な戦争を起こし、アジアにも侵略をし、それはナチスのヒトラー政権にも匹敵すると言われ、日本だけではなく世界の教科書にまで悪の象徴として書かれております。

ところで私の父は帝国陸軍の指導者を要請するための大学、陸軍士官学校で学んでいる途中、18歳と半年の時、1945年8月15日に敗戦になりました。戦後かなり経て卒業証書を頂き、それは大切な遺品として我が

家にあります。従って私は悪魔の軍団の指導者を要請する陸軍士官学校に学んだ父親の息子であります。これが私のルーツです。このような問題意識を持って、林千勝のYouTubeと彼の著『日本開戦 陸軍の勝算「秋丸機関」の最終報告書』に出会ったのです。

「秋丸機関」は「陸軍省戦争経済研究班」のことで、帝国陸軍が太平洋戦争勃発の1941年真珠湾奇襲攻撃より2年前、1939年9月に100〜200人の各界の優れた人たちを集めて、日本が日英蘭を相手に戦争を始めるべきか否かについて研究する機関を作りました。日本のように資源が少ない「持たざる国」が「持てる国」と戦争する場合どうすれば勝てるか、経済、歴史、文化など多方面から研究しました。

ドイツが第2次世界大戦を開始し、アメリカは日米通商条約破棄、そしてアメリカ、オランダ、イギリスによる対日全面禁輸措置など、緊迫した情勢の中、日本の英知を集結した「秋丸機関」が「対英米戦に関する最終報告」を出しました。それは科学的、合理的に勝つためのシナリオでした。この報告を基に1941年11月15日に大本営政府連絡会議にて戦争を始めることが決定されました。

短期的に初戦で勝っても、アメリカは直ぐに生産力を上げて盛り返し、物資の少ない日本は敗戦に追い込まれるだろう、短期戦ではなく長期戦のシナリオで、アメリカ

力との開戦はできるだけ送らせること、他方、東南アジア、インド、西アジアの植民地を解放して大東亜共栄圏を作り、石油など物資の供給を豊かにして、アメリカとの戦争に備えるものでした。またこの政策と実行がアジア・アフリカの植民地独立へのきっかけになりました。このように東南アジアからインド、ペルシャ等、西へ攻める西進計画であり、戦争の名前も「大東亜戦争」でした。

これを太平洋戦争に変えたのが山本連合艦隊司令長官です。1941年12月8日ハワイの真珠湾奇襲攻撃です。これに対して著者、林千勝氏は次ように述べております。「ここに、インド洋を始めとする西進戦略はすべて崩壊、日本の戦争戦略は完全に破綻したのでした。山本五十六連合艦隊司令長官らによる戦争戦略からの逸脱が、我が国をそもそも意図せざる太平洋戦争という地獄へと転落させ、大東亜戦争を遂行不能に陥れたということです。」

この報告書は敗戦とともにアメリカのGHQの指導の下、戦後レジームの中で、闇に葬り去られました。「戦後レジームにおけるレットテル『大東亜戦争は、日本軍（陸軍）が、無謀な戦争へと暴走したものが成り立たなくなるからです。」

この報告書を実質リードしたのが有沢広巳でした。東京裁判で陸軍の参謀たちの多くは絞首刑等で裁かれましたが、有沢広巳は生き残り、戦後の経済復興に吉田茂内

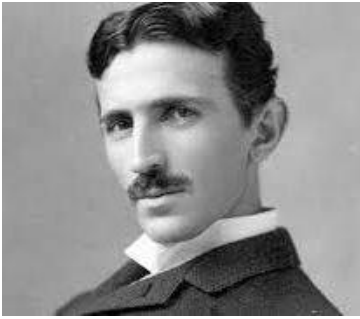
閣のブレインとして活躍し、1988年6月、92歳で亡くなりました。その後、遺族が、抹殺されたことになっていたこの報告書の一部を東京大学の図書館に寄贈しました。

この寄贈された報告書を、林千勝が発見し読み解いたのがこの著書です。

マスコミや教科書ではタブーとなっているこの真実を林千勝は公演や YouTube を通じて真実を明らかにしています。

父は生前に一度も陸軍士官学校時代のことを語りませんでした。愚直に真面目に世界史の高校教師として生き、家族を大事にして、62歳で亡くなりました。父は終戦までの18歳と半年をどのように生きたのでしょうか。国家のために軍人の指導者になろうと勉強強をして陸軍士官学校に入りました。そこで彼は何を学んだのでしょうか。

林知勝は次のように述べています。「筆者には、日本人、殊に父祖の時代の日本人に対する厚い信頼感がありました。真摯で、我慢強く、ひたむきで、責任感が強く、誠がありました。そして、人との和を尊ぶことが標準的な日本人の姿でありました。さらに幕末維新から日露戦争を経て英米による直接的な圧迫の時代へと一貫して続いた厳しい状況に対峙してきた指導者層には、鍛え抜かれた思惟と底知れぬ胆力が引き継がれてきたはずです。」



一九世紀末に活躍した発明家ニコラ・テスラほど、謎と伝説に彩られた発明家はいません。「発明の天才」、「電気の人」、「電気の天才」、「電気の魔術

……」(ケネス・スウェージー『ニコラ・テスラ』)

「一九四三年一月八日の朝、彼の部屋をノックしたメイドに答えはなかった。……点滅するネオンサイン、轟音を立てる地下鉄、鳴り響くラジオ、何百万家庭の光と動力など、彼が大きく貢献して作った現代の電気時代のシンボルたちから隠されて、テスラは夜のうちに死んだ。生まれたときと同じように静かに……」(ケネス・スウェージー『ニコラ・テスラ』)

100年後の世界史は次のように書き換えられているかもしれません。「欧米の人種差別と植民地支配から解放したのは神の軍団、日本帝国陸軍であった。」

ある発明家の病理

——天才ニコラ・テスラの生涯

新戸雅章

師」、「交流の父」……。彼を信奉する科学者や技術者、科学史家からはおよそ考えられる限りの賛辞が送られています。

こうした賛辞は決して大袈裟なものではありません。今日の電力システムが交流に基礎を置いていることはよく知られています。私たちは発電所から送られてくる交流の電力を利用して照明を灯し、洗濯機や掃除機を動かしているのです。テレビもパソコンもインターネットも、エネルギー源たる電力が存在しなければ機能を果たせないし、第一、工場に電力が供給されなければ部品や製品を生産することさえできません。

要するに私たちが享受している電化生活は、交流電力によつて支えられているといつて過言ではないのです。この交流電力技術を確立するうえでテスラ以上の功労者はいませんでした。

テスラは一八五六年、オーストリアハンガリー帝国のセルビア人居住区に生まれました。一八八二年、電気技師としてブタペスト滞在中に回転磁界の原理を発見、これに基づいて最初の実用的な交流モーター(二相誘導モーター)を完成させました。このモーターを三相以上に発展させ、発電機などの関連技術とあわせて体系化したのがテスラの多相交流システムです。

テスラの発明を真つ先に認めたのは、早くから交流技術に取り組んでいた起業家ジョージ・ウエスティングハウスです。ウエスティングハウスはテスラの特許を高額で購

入、ここから交流配電網の拡大をめざす二人の同盟関係が始まりました。

この交流同盟軍に激しく対立したのが、直流による配電システムをすでに推進していた発明王エジソンとその支持者たちでした。両陣営の対立は技術者や企業家を巻き込んでほぼ十年近くにわたって続きました。

世に言う「電流戦争」です。

しかし、テスラのシステムの優秀さは徐々に知られるようになり、有名なナイアガラ瀑布発電所に採用されたことで、最終的に闘いは交流陣営の勝利に帰しました。

交流システムを完成させたテスラはその後、電磁波の研究に向かい、ここからも数多くの画期的な発明や発見を生みました。高周波高電圧を発生させるテスラ・コイル、電波を分離する同調回路技術、アンテナ・アース・システムなどは無線電信やラジオ放送の基盤技術となりました。

こうした業績に基づいて一九四三年、アメリカ最高裁はラジオの発明者をマルコーニではなくテスラとする裁定を下しました。

また高周波を照明に応用した放電照明システムは蛍光灯やネオンサインの先駆けとなり、マディソン・スクウェア・ア・ガーデンで公開した無線操縦ボートは現代の「遠隔無線操縦技術」に道を開きました。

その功績は、ノーベル物理学賞の候補にのぼり、磁束密度をあらゆる国際単位系にその名が採用されているからわかるでしょう。(テスラが一万ガウス)

だが、その天才発明家も一般にはほとんど名を知られていません。実際、その知名度は第二の祖国米国でも驚くほど低く、日本ではさらに無名です。事情は専門家の間でも同様で、電気工学を学んだ学生が名前さえ知らない例は少なくありません。

電球の発明者はエジソン、飛行機はライト兄弟、電話はグラハム・ベル。こうした発明史上の業績と発明家の名前は小学生でも知っています。電力システムの発明が、重要性において飛行機や電話に劣らないことは言うまでもないでしょう。

では、その発明者の名がなぜこうも無名なのでしょう？ これは科学史や技術史のみにとどまらず、大いなる歴史の謎といわざるをえません。

もっとも、テスラが日本で完全に無名であるというのは正確ではありません。彼の名前がひんぱんに登場するメディアも存在するからです。その媒体とは、いわゆるオカルト雑誌やオカルト本の類です。

ために日本で発行されているオカルト雑誌のバックナンバーを繰ってみれば、テスラの名前にめぐりあうのはむずかしいことではありません。

しかしながら、ここでのテスラの役回りは、天才発明家を通り越して完全なマッド・サイエンティストです。晩年の不遇の中で完成させた発明は、世界に破壊をもたらす超破壊兵器だった。そのため、米ソをはじめ世界中の謀略機関、秘密組織がこれをねらって暗躍した……。そんな類の

伝説が元軍事関係者の証言などとともに、虚実まじえて語られています。

旧い例になりますが、一九八〇年代にアメリカのレーガン元大統領がSDI（戦略防衛構想）を提唱したとき、軍や政府関係者の間に旧ソ連がテスラの秘密論文をもとに粒子ビーム兵器を開発しているという噂が流れました。噂の出所は複数の軍事関係者の証言でした。このとき問題の論文とは、テスラの死後、謀略機関が彼の私金庫から盗み出したものだとされました。

一九九五年、日本でもテスラの発明をめぐる奇怪な事件が起こりました。地下鉄サリン事件で世界を震撼させたオウム真理教の信者が、テスラの秘蔵論文を求めてベオグラードのテスラ博物館を訪れたのです。彼らの目的は、テスラの発明を地震兵器などのいわゆる「ハルマゲドン（最終戦争）兵器」として利用することにあつたと考えられています。

交流システムの完成者、無線とラジオの先駆者として電気工学最後の天才と称されるテスラの名が、一方ではあらゆる怪しげな噂や陰謀と結びついて取りざたされている。この落差はいったいどこから来るのでしょうか。

結論から先に言えば、それは光と影に彩られた彼の生涯の反映でした。電気の魔術師としてエジソン以上の天才をうたわれた発明家は、エネルギーと情報を自由に操る「世界システム」の実現に後半生をかけました。これが資金難から挫折すると、成功病に取りつかれたアメリカ社会の評

価は急落し、ついには詐欺師、落伍者というレッテルをはられることになったのです。

栄光と悲惨、成功と挫折。天才にはつきものの変転を一面的に強調する議論が、テスラ像をゆがめ、正当な評価を奪ってきたのです。しかし彼の人と業績を子細にたどれば、すべて含めてテスラはテスラだということがわかるはずです。
(以下、次号)

私がオカルト雑誌をきっかけに天才発明家ニコラ・テスラと初めて出会ったのは今から三〇数年前。以後、生涯のテーマと定めて、その研究を十冊近い本にまとめてきました。

テスラは幼い頃から特異な精神生活を送り、青年期から晩年にかけてさまざまな精神疾患に苦しめられたことが知られています。その病理が彼の異常な創造性につながったのではないかとも言われています。

その不思議な生涯の一部をここでご紹介させていただければと思います。まずは次回以降、彼の経歴から。

心の病について

賀来宏之

みなさん、こんにちは。インユーで折り紙講師をさせていただいております。賀来です。わたしも、統合失調症という心の病と付き合いながら生きています。一九九三年にうつ状態と診断され、三〇年くらいたちます。色々

なことがあり、ときには精神科病院を恨み、そして合計六回の入院を繰り返して、合計六年間くらい精神科病院の中にいました。

わたしは、今のこの国の精神科の在り方を心から肯定することはできません。けれども、今は絵画展に精神科の訪問看護のスタッフさんや、栄養指導の栄養士さんや、ワーカーさんも観に来てくださいます。いろいろな、思いもよらなかったような、人と人とのつながりは広がります。

わたしも、閉鎖病棟のさらに奥の、(保護室という)独房に閉じ込められたこともあり、いろいろと辛いこともありましたが、けれども、ひとつだけ確かなのは、わたしも人間ですが、(閉じ込める側の)医療のスタッフの人々も、やはり同じ「ひと」なのだということです。人間です。一〇〇%正しいということもないし、その反対もありません。それに少しずつですが気が付き、少しずつですが、狭かった世界が広がり、心持ちもよくなりました。

ひとには、多くの間違いがあり、そして勘違いもあり、思い込みもあります。けれども、人と人とのつながりもあり、そこから嬉しいことや、思いもしなかったようなこと、様々な出来事があります。

今日、四月一五日、インユーへ折り紙講師として行くことが、ほんとうに誇らしいです。

メンバーの広場

ネズちゃんと私 パートⅧ

桂 奈美

今回はネズが、あまりの私の所業に離婚すると言いました。ネズも私も、互いをあんたと呼ぶのが嫌いなので、私はおまえさん、ネズは私のことをおまえと呼びます。わたしは試しにネズに聞いてみました。

「おまえさん、私と別れてどこに行くの？ 東アフリカに帰るの？ それとも家庭内別居して、台所の隅で寝るの？」

するとネズの眼にうっすら涙がうかびました。ネズが私のところしかどこにも行くところがないのをさとした涙です。死まではさどっていませんが、思わず私はその涙を見てネズを抱きしめました。ネズも私に飛びついてきて、せきを切ったようにワァーっと泣き出しました。



ネズは、「もう悪いことしないね。うん、離婚しない」
ネズの顔が心なしか輝いて見えました。「ネズ」と、私は思わず、ネズを抱きしめ返しました。
涙でグシヨグシヨのネズのほおにほおを寄せ、その夜、二人は確かに同じ夢を見ました。月の世界へともに行く夢です。その時一すじ流れた金の流れ星は、昼間ネズが滝のように流した涙の一しずくでした。

「奈美がいけないんだ。奈美がいけないんだ。お電話注意しなさいよと僕が言っているのにミスっちゃうし、夜遊びしては入院するし、奈美がいけないんだ」と、ワァーワァーなくネズを、私は赤ちゃんをあやすかのように抱いていました。
「ネズごめんね。ネズごめんね」と、私まで泣けてきました。お兄ちゃんネズミだけは冷静に笑みを浮かべてネズをじっと見ています。ネズはヒックヒックと言いながら、「僕、東アフリカなんかへ帰りたくない。台所の隅でも寝たくない。奈美のベッドで奈美と一緒に寝たい」
私はネズの大泣きに降参して、私のほうから頭を下げネズに頼みました。
「ネズごめんさい。私が悪かったね。離婚しないで下さい」



たつおちゃんはだっこされるのが好きと聞いていたので、すぐ私はだっこしました。暫く抱かれていましたが、抱き方が悪かったのか、次にチエンジ、また抱こうとすると手をかまれてしまいました。のっしのっしと歩いて飼い主さんのお腹の上へべちゃっと甘えていました。たつおちゃんはだっこが好きで甘えたり、つなこちゃんはだっこはあまり好きで

私の友人の飼っている猫ちゃんのつなこちゃんとなつおちゃんとは、夫婦です。初めてつなこちゃんを見たときは、何て美人な綺麗な顔をした猫ちゃんかと思いました。まるで処女そのものですが、つなこちゃんはたつおの奥さんで処女ではありません。棚の上からちょこんと顔を出してこちらを見ていたので、怖がってはいませんが、おとなしい猫ちゃんでした。
そしてたつおちゃんはどっしりした男の子で、のっしのっしと歩いて、私の持つて来たピンクのバッグの持ち手をかじってしまいました。「かんじゃ、駄目」と思わず私がそう言うと、飼い主さんが、バッグを押し入れにしまってくれました。

つなこことたつお

桂 奈美



つなこちゃんはアメリカン
カーラーみけです。たつお
ちゃんはアメリカンショート
ヘアです。たつおちゃんは
水を手ですくって飲みます。
「たつお」と、呼ぶと必ずく
るつと振り返り可愛いです。
夏はカーラーのきいている部
屋で二人ともお腹を丸出して



はなく、人見知りでシャイと
いうことです。
私はささみ味のチヤン
チユールを持っていきまし
たが、たつおちゃんはよく食
べるのにつなこちゃんは一
切食べようとしませんでし
た。二人にあげているといっ
た。つなこちゃんは「あなた食べ
てくれて有難う」というかのように、たつおちゃんの頬をな
めていました。

その次、紺の大きなバツクを持っていき、かつお味のチヤ
ンチユールを持って行った時は、たつおちゃんはバツクに
頬ずりし、つなこちゃんは一生懸命かつお味のチヤン
チユールを食べてくれました。あのだっこの嫌なつなこ
ちゃんが、私にだっこされ、すーっと神棚から広間に来まし
た。そしてたつおちゃんは私がトイレに行くと、トイレの前
で座って出てくるのを待っていてくれました。

のびおび寝ていてその可愛いこと。
つなこちゃんとはいつも飼い主さんの布団の中でこんも
りお座り、たつおちゃんは飼い主さんのそばで顔だけ出し
てチヨコンと座っています。可愛い猫ちゃんです。
この思い出だけで私はもう胸一杯。つなこちゃん、たつお
ちゃん元気でね。

俳句

小山美保

風船と遊べる吾子抱きしめむ
蛙の子お玉じゃくしとはこれいかに
山吹のワンピース着て踊りたり
雀の子いじめられっこ泣きぬれて
巣立鳥親の後をば子が追へる
子ら騒ぐ精霊流しの道すから
離婚する泣きおるネズの流れ星
長き夜に思ひ出す友幼き日
夏の日に遊びほつけるきりぎりす
紅葉狩紅葉饅頭食べ乍ら

僕の背より高い向日葵

ある夏の日

宮尾俊介

僕は、公園の帰り道、道に迷った。
細い道。両側に田んぼがあり、右を見ると川が流れている。

左を見ると大きな向日葵
そこに椅子が置いてあった。

僕は、椅子に座り、向日葵の大きさに驚いた。

そこはバス停でもあり、
バスが来るのを待つ人もいた。

道に迷ったことで、こんなにたくさんの思い出ができた。
長くて大きな向日葵は、夏がくれば大きく咲くのかな。



障害者の空想・妄想

Hide.N

- ① 自分の立場を考えて、現実を見なければならぬ。
- ② 障害者の世界は冗談キツイとダメ。相手にされなくなる。
- ③ 相手も冗談キツイことがある。(皆さん常識ある人だから信じてあげましょう(笑))
- ④ 何で障害者になったかわからないので悩んでいるのが障害者です。
- ⑤ 障害者は皆さん言っていることが冗談だから、怒ったり出て行かなきゃならなくなる。
皆さん、考えてください。

以上

時間

水野弥生

私は仕事のし過ぎで職場で何度も倒れてしまい、入院し、退院時になぜか内科の先生から精神科の先生を紹介され、心療内科や精神科との付き合いが始まり、もう今年で一〇年目に入ります。

精神科の先生と診察が始まり数ヶ月。

私は家族との関係のことがきつかけで精神科に掛かったんだと……気づき始め、自分の不安と家族の悩みを見つめて、自分のことだけでいっぱいいっぱいになってしまっている間に、私自身当時支えていた大切な人が自殺未遂するほど苦しんでいたのに、当時の私は寄り添いつつも、親になるんだからお腹の子に謝って!!と、溜まっていたイライラも有ったのか自分を傷つけたいと感じ行動して、つらく苦しみを抱えている相手に強く言ってしまうました。

その三日後、一緒にお墓参りした亡くなって五年経つお母さんの命日に、私の大切な人も、今までありがとうございました等いろいろ書いてあるいらん遺書を残し、行ってしまいました。

そんなこんなで、相手のご家族にも、私たち家族には遺書さえありませんとか、しばらく全てなかったことと考えたいと言われ、今にいたります。

二〇二一年、私はやっと以前のように少しずつですが、時間を大切にしながら生きられる歳になりました。こんな私でも波があつたり、周りの迷惑に気付けなかつたり、焦りから待てなかつたり、優先順位を間違えていたり、幻聴や反動もありと……、ま、いろいろです。

未熟な私ですが、インユウの職員さん方にはインユウで自由にさせて頂き日々感謝の気持ちでいっばいです。インユウのおかげで、こんな私でも就労継続支援B型や横浜の人権センターの電話相談ボランティアとの関りなど、今の自分に来ることを増やすことができました。ありがとうございます。

二〇二二年も残りの時間を大切にするためではなく、相手のためと胸を張って生きていけるよう、やりたいこと、目指していること、目標にしていることを楽しんで学び続けられたらと思っています。

これからも周りのサポートを得ながらも、頑張っていきたいな。

(二〇二二年の新春に)

柴田品子の世界⑥

柴田品子

(承前)

この八正道は通常の世俗の中で暮らしている私達人間はなかなか実践できない。私が親鸞の教え(悪人正機)に助けてもらいながら生きていくのが良いと思つた所以である。

八正道ができないということは、例えば、私は腹八分はなかなか出来ないし、怠け癖はあるし、汚れているところを見ると、見なかつたことにする、ということもあるし、お酒はガバガバ飲むし、片付け物等は後回しにする事など、出来ないことはキリがない。でも心はあまり汚れていないと思う。

如來所説

かようにわたしは聞いた。

ある時、世尊は、パーラーナシー(婆羅捺)なるイシパタナ・ミガダーヤにましました。

その時、世尊は五人の比丘たちに告げて仰せられた。

「もろもろの比丘よ、出家したる者は、二つの極端に親しみ近づいてはならない。その二つとは何であらうか。

諸欲のなかにあつて、欲の快樂にふけるは、申しむべき凡人にして聖ならず。道理のないことに執着しているのである。またみずから苦しめて苦をこととするは、ただ苦しむだ

けであつて聖ではない。それも道理のないことに執着しているのである。もろもろの比丘よ、如來はこの二つの極端を捨てて中道を悟つた。これは眼を開き、智を生じ、寂靜をらしめ、覺悟を与え、正覚にいたらしめ、涅槃に赴かしめる。もろもろの比丘よ、では、如來が中道を悟り、それが眼を開き、智を生じ、寂靜を得しめ、覺悟を与え、正覚にいたらしめ、涅槃に赴かしめるとはどのようなことであらうか。それは八支の聖道である。

いわく、正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定である。もろもろの比丘よ、これが如來の悟りえた中道であつて、これが眼を開き、智を生じ、寂靜を得しめ、覺悟を与え、正覚にいたらしめ、涅槃に赴かしめるのである」

中道

「弾琴のたとえ」に見る中道

ソーナという勤勉な比丘に向かつて発せられた言葉である。「琴を弾くときには、ぴんとはりつめてばかりおつてもいけないだろう」「さようぞうぞうします」「それでは緩めたらどういふことになるか」「緩くてもまたどうにもなりません」「ソーナよ、この道もそのようなものである。琴は適度、適当に、ある時は締め、ある時は緩やかにしなければならぬ。この道、すなわち仏教というものは、仏道というものもまた同じである。汝はその中をとりかねばならない」

中道私見

私は中道ということ深く考えてみたことがある。現代の学者も色々な解釈の仕方をしているが、苦行主義、快樂主義のいずれにも片寄らない（不吉、不樂の中道）八正道によつて悟りに到着すること、心を「コントロール」できる状態になること等とされているのが一般的なようである。私は釈尊自身が達した中道とは、零ではないかと思つた。それもゆたかな広がりを持った零である。そしてそれは涅槃への境地へと直結する高度で純粹な永遠の零ではないかと思う。だがこれはあくまでも釈尊自身のことと考える。

あれだけの修行を積み、いろいろなその当時の覚者達とも対峙し、それを越している。そして自身では荒行では真理は掴めぬと、それを捨て真理を得た人間である。その当時の修行者達は、その相貌を観ただけで跪いたという。やはりその達した境地は釈尊の御顔に現れたのであろう。私も出来ればその当時に生まれ、釈尊の御顔を拝顔してみたかった。――が、釈尊は亡くなつた。当然である。人間は誰もが死の運命からは逃れることはできないからである。だが釈尊の入滅は輪廻から解放された涅槃である。釈尊は入滅する前に云つてゐる。人は泣かずともよい。私は完全な涅槃を得た。

（以下次号）

能における自由句

松風（村雨）

海雨二人 なき行平を 待つ涙

隅田川

死にし子と 南無阿弥陀仏 狂母悲し



猩々しやうじやう

老ひぬ身の 赤き猩々 舞遊ぶ

景清

平家滅す 白眼漬すか あゝ景清

安達ヶ原あだち

糸紡ぐ 老婆の正体 人喰い鬼

葵の上

高貴の女ひと 六条の嫉妬 般若なり

紅葉狩り

紅葉狩 鬼女艶やかに 舞い狂う

卒塔婆小町そとらば

麗しき 小町征き着く 姥かな

井筒いづつ

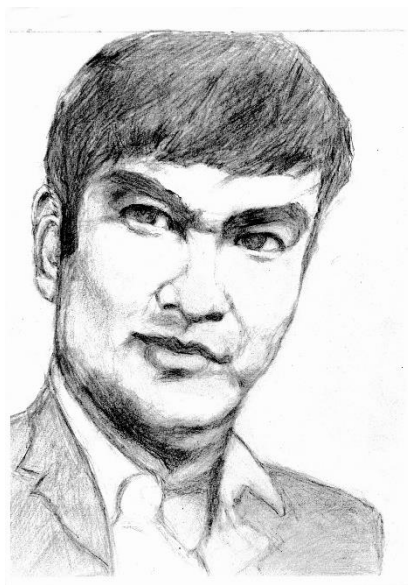
井戸覗く 美女恋惚ぶ 業行となり

山姥やまば

山巡り 禅を説くや 山姥かな

面影孫次郎 (能面)

亡き妻の 面影惚びつつ 孫次郎



石原裕次郎——柴田品子画

短篇小説——精神科病棟日誌シリーズ④

小野智司

数学

数学者の泉川さんは今日もベッドを机代わりにして何やらノートに計算を書き付けている。彼によると、インドの有名な天才数学者ラマヌジャンは毎晩夢にヒンズー教の女神ナマギーリが現れて美しい数学の定理を教えにくれたそうで、彼の夢にも何やら妖怪が現れてやはり数式を伝えてくれるのだという話だ。高校数学すら怪しい私には、内容はちんぷんかんぷんだが、病棟での暇つぶしに数学の質問をすると、泉川さんは極度にはしゃぎながら紙に鉛筆で数字や記号を書き連ねながら熱心に説明をしてくれる。

彼は東京のT大学数学科を首席で卒業したという話だが、歴史上多くの数学者がそうであったように、卒業と同時に発狂してしまい、いらい何十年も精神病院で数学三昧の人生を送ってきた。狂っているから彼のやっている数学も論理的に支離滅裂なのかどうか、素人の私には判断がつきかねる。ラマヌジャンの場合は、女神に習った数式をいきなり書くと、証明の手続きを省いて結果だけを示しているのが最初は誰にもわからないのだが、世界中の数学者たちが寄ってたかつて調べて確かに正しい

ことが判明したということで、まだ解明されていない定理も数多く残っているそうだ。泉川さんがラマヌジャンに匹敵する大数学者なのかどうかはなはだ未知数だが、あの熱心さで説明されると、複雑怪奇な論理の世界に巻き込まれそうで、眩暈がしてくるくらいだ。精神病も人に移ることがあるらしいから、ご同病の私も新しい症状が出てくるかもしれないので注意は怠れない。

「大原さん、ゴールドバッハ予想って知ってますか？」
嬉々として泉川さんに尋ねられた。

「ええと、確か、すべての2よりも大きい偶数は二つの素数の和であらわせるとかいう問題でしたっけ」私はたまたま高校で聞きかじった知識を思い出した。もちろん証明など私にできるわけではない。これが解けると、数学のノーベル賞と言われるフィールズ賞をもらえるのも夢ではない、という整数論の大問題だ。

「へへへ、僕ね、これ証明を見つけてちゃったんですよ」

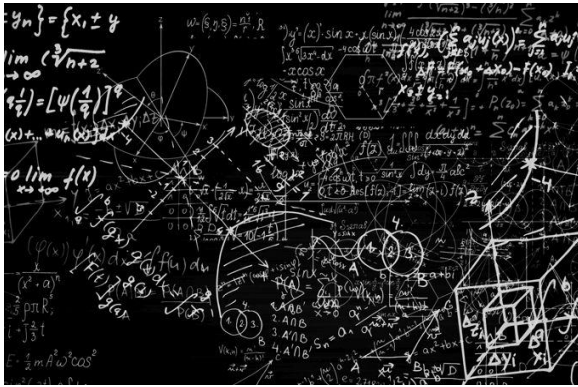
「へえ、凄いですね」

「ウィルソンの定理を使つて背理法で証明するんですよ」それから泉川さんは素数やら約数やら合成数やら合同式やら数学用語や記号を紙に書きなぐり、菓の時間ですよと看護婦が告げるのも無視して、長々と説明を始めた。

最初のうちは何とか私も若干理解できたが、ウィルソンの定理の証明のあたりから、さっぱりわからなくなつた。私も好奇心は旺盛な質だから、わかりたいという気持ちはあるのだが、囲碁の複雑な定石のように頭がこん

がらがつてくる。

泉川さんの病気は統合失調症ということだが、夢の妖怪は正しい数式ばかりを教えてくれるわけではないらしい。ときどき、目覚めているときにも妖怪は現れて、昨日の晩教えた数式には実は間違っているのだが、教えてやらないから自分で考えろ、という幻聴があるそうだ。そうになると、自分で発見した数式ではもともとない以上、正しい解答は不明、するとますます幻聴はひどくなって、終いには難解な蟻地獄のような思考の迷路に落とし込まれ、気が付いたら足元に小さなピンク色の象の大名行列が見えてきて、たまらなくなつて大声で叫びだす。するとすぐに看護婦に注射を打たれ、めでたく隔離室送りとなる。独房には紙も鉛筆も持ち込めない。酷い時は爪で木製の壁を引っ搔いて計算をしようとして、看護師たちに取り押さえられて拘束服を着せられる。そんな日々が数



週間も続く。

そんな訳だから、今回のゴールドバッツ八予想の証明が正しいかどうか、気は狂っているが答えは合っているのかどうか、病気という側面からしても不明である。しかし、天才画家ゴッホのように重い精神疾患でも傑作を描けたのと同じように、泉川さんがたとえ病気でても正解している可能性は否定できない。人知れず、世界の数学史に名を残す大発見をしているのかもしれない。

私としては、女神ナギーリが泉川さんの夢の妖怪を退治してくれることを祈るばかりである。

鏡

鏡の中で男がにやりと笑った。

俺はな、お袋の糞と一緒に生まれたのさ。公務員だった親父は根っからのサゲイストで、俺が生まれる前から母親をいじめていた。DVなんてものじゃない。うちには竹刀があつて、何かにつけ母親や俺をそれで打つたんだ。俺が十三の時、母親は死んだよ。親父に打ちのめされてね。あいつは警察に根回ししていたから、不起訴で済んだ。それからというもの、俺はあいつに叩かれ、殴られ、蹴られ、血まみれ痣だらけで育った。俺が十六の時、大みそかの晩、酒を飲みながら紅白を見ていた親父がこの女ブスだと呟いた瞬間、俺はついに切れちまつて、後ろから奴の後頭部に一升瓶を思いきりぶつけて

やったのさ。奴は死に、俺は大声で何やらわあわあ叫び続けていた。気がついたら強制入院で精神科にぶちこまれて、もう何年になるかなあ。

男はそう言うと、また鏡の中で私を見つめてにやりと笑った。消灯後の薄暗がりの中、デイルームの大きな鏡に男はいつも自分を映して、佇んでいる。髪も髭もぼろぼろに伸ばして、じつと動かない。私は横に立って、男の昔語りを聞いている。

俺はな、こいつが憎くて憎くてしかたがないんだ、と男は鏡の中の自分を指さして言った。こんな質の悪い目つきをしてしゃあじゃあと生きてやがる。こんな奴は生きてたつてしようがないんだ。糞。なんとか言え。

ある晩、静まり返った病棟に、ガシヤンと何かの割れる大きな音が響き渡った。

インタビューピックス

横須賀美術館へドライブ

10月17日、横須賀市の美術館にドライブに行きました。大きくて綺麗な美術館で、三越の包装紙で有名な猪熊弦一郎の特別展など、展示内容も充実していました。天候に恵まれ、行きに立ち寄ったパーキングエリアの食事もおいしく、楽しく、充実した一日になりました。次はどこに行くか、皆楽しみにしています。



美術館の前で

編集後記

前号から一年近く空いてしまいましたが、ようやく第8号発刊にこぎつけることができました。前号発刊時から、新型コロナウイルス感染は少し落ち着いて来たとはいえ、まだ、冬に向かつてインフルエンザとの同時流行も心配されています。油断せず、それでも日常の中になにか楽しみを見出していきたいと思う今日この頃です。大変な中原稿をお寄せ下さった皆さま、どうもありがとうございました。(ま)